

GCOE 国際会議出席報告書 (外国旅費用)

拠点リーダー 川合 光 殿

(ふりがな) 氏 名	やぎ けんと	所属・職名	指導教員名 (院生の場合)
	八木 絢外	天体核・D2	中村 卓史
Tel,Fax e-mail	075-753-3850 kent@tap.scphys.kyoto-u.ac.jp		
発表題名	Probing the size of extra dimension with DECIGO/BBO		
著者名	Kent Yagi, Norihiro Tanahashi and Takahiro Tanaka		
会議名称 ・開催期間	19 th International Conference on General Relativity and Gravitation 自 2010 年 7 月 5 日 ~ 至 2010 年 7 月 9 日		
開催地 (国、市)	メキシコ・シティー、メキシコ		
出張期間	自 2010 年 7 月 4 日 ~ 至 2010 年 7 月 11 日		
国別参加者数	全参加者：約 800 名		
<p>発表内容、聴衆の反応、質疑応答、その他について簡潔に記述してください。 (口頭発表・ポスター発表の別も文中に明記すること。)</p> <p><u>発表内容</u></p> <p>私は上記の会議において口頭発表を行った。発表内容は、DECIGO や BBO といった将来の宇宙重力波干渉計を用いた場合、余剰次元の大きさに対してどの程度強い制限を与えられるか計算したというものである。解析の結果、ある種の高次元理論において、余剰次元のサイズに対して現在実験から得られている制限よりも 10 倍以上強い制限を与えられることがわかった。</p> <p><u>聴衆の反応、質疑応答</u></p> <p>聴衆は本発表を興味深く聴いており、発表後も質問がいくつかあったが私の答えに納得していた。また、セッション終了後も個別に質問に来た聴衆が数人おり、議論を交わすことで理解を深めることができた。</p> <p><u>その他</u></p> <p>本研究と関連の深い発表がいくつかあり、それらの発表者と面識を持って議論できたことは非常に有意義であった。これらの発表者とは現在もメールで議論をしている最中であり、今後共同研究をする可能性もある。また、GCOE 双方向国際交流プログラム(BIEP)を利用して、相手の研究機関に滞在し、共同研究を行うことも検討している。</p> <p>さらに、本研究と直接関わりの無い分野であっても興味深い発表がたくさんあり、幅広い知識を身につけられたため、とても価値のある時間を過ごすことができた。本研究とこれらの分野を融合した研究ができないかどうか、今後検討していく。</p>			